

## 2 中学校の実践事例と評価

### 実践事例 4

### 授業展開例 (中学校第2学年)

- 1 主題名 不公正を許さぬ心【内容項目 C(11) 公正、公平、社会正義】
- 2 ねらい いじめの愚かさを知り、差別、偏見を憎み、不公正な言動を断固として許さない心情を育てる。

教材名 「卒業文集最後の二行」(「私たちの道徳」中学校 文部科学省)



### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする道徳的価値

正義とは、人が踏み行ふべき正しい道筋や社会全体としての正しい秩序等を広く意味し、法にかなっていることや各人に正当な持分を与えるという意味もある。公正さとは、分配や手続きの上で公平で偏りがなく、明白で正しいことを意味する。よりよい社会を実現するためには、正義と公正さを重んじる精神が不可欠であり、物事の是非を見極めて、誰に対しても公平に接し続けようとする必要がある。また、法やきまりに反する行為と同様に、自他の不公正に気付き、それを許さないという断固とした姿勢と力を合わせて積極的に差別や偏見をなくす努力が重要である。

そこで、正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする心情を育てたいと考える。

#### (2) 生徒の実態

生徒は小学校高学年の段階で、誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めることの大切さについて学んでいる。中学校入学から間もない時期には、自己中心的な考え方や偏った見方をしてしまい、他者に対して不公平な態度をとる場合があった。学級や学年で協力し各行事を成功させることで、互いの個性を大切にすよさを感じてきた。しかし時に、仲間外れにされたくない気持ちから、周囲で不公正があっても多数の意見に同調したり傍観したりするだけで、制止することができないことがある。そして、不正な行動等が起きても、勇気を出して止めることに消極的になってしまう姿も見られる。

そこで、置かれている自分の立場に目を向けさせ、差別や偏見をなくすように努力し、不正を憎み不正な言動を断固として否定する社会の実現に積極的に努めようとする心情を育てたいと考える。

#### (3) 教材の活用について

本教材は、登場人物である「私」が小学校6年生のときのできごとを回想録の形で描いている。

「私」はT子との生活環境等の違いから、T子に対して差別や偏見をもち、いじめた。ある日、「私」はT子のテストをカンニングして満点をとる。そのことで自身の弱さを痛感するが、周りの言動に流され、自分の不正を棚に上げ、T子がカンニングしたのではないかと責め立てた。やがて卒業式を迎え、配られた卒業文集に書かれたT子の最後の二行を読み、「私」は涙が止まらなかったという話である。生徒は、自分と他者との違いから、相手を除外しようとしたり除外されたりする体験や、不正な行いがあっても自分自身を正したり周りの不正を正したりすることは難しいという体験が少なからずあるだろう。そこで、登場人物の「私」の気持ちを共感的に考えさせることで、いじめの愚かさを感じさせ、差別や偏見を憎み、不正な言動を断固として許さない心情を育てたいと考える。

#### 4 学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ◎中心となる発問 ・予想される生徒の反応)	◇指導の留意点
導入	1 教材について知る。 今日の教材は「卒業文集最後の二行」です。東北の津軽に近いところのお話です。どんな状況なのかを考えながら聞いてください。	◇教材の舞台が東北の津軽に近い地域であり、津軽弁で書かれていることを伝え、生徒に興味をもたせる。
展開	2 教材「卒業文集最後の二行」を読み、話し合う。 ○卒業文集の最後の二行を読んで涙が止まらなかった「私」は、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・ T子さんに本当に辛く、悲しい思いをさせてしまった。 ・ 周りの人と一緒にいじめたことを後悔している。 ・ 外見で人を判断する自分の醜さに気付いた。 3 自分の生活を振り返って考える。 ◎人はなぜいじめてはいけなくて分かっていのに、いじめてしまうのか。どうしたらいじめはなくなるのだろうか。 ①なぜいじめてしまうのか。 ・ 立場に上下関係を作ってしまう気持ちがあるから。 ・ いじめを楽しいと思う人が少なからずいるから。 ・ 人を見下して優位でいたいという弱さが人間にはあるから。 ②どうしたら、いじめはなくなるのか。 ・ 一人一人が人の気持ちを考えること。相手の立場を考える。 ・ 注意する。一人でできなければ、何人かで注意して止める。 ・ いじめが起こる前に、みんなで仲よくする。 ○今日の授業で感じたことや気付いたことは何でしょう。 ・ 友達みんなに対して公平に接しているのか自信がない。人の好き嫌いはあっても、その人のよいところを見ていきたい。	◇「さんざんいじめていたにもかかわらず、何で今さら涙を流すのか。」と問い返すことで、主人公の不公正さについて考えさせる。  ◇ワークシートの活用  ◇差別や偏見の心が生まれてしまう人の弱さや不公正な行動をとってしまう人の弱さについて気付かせる。  ◇不公正な言動を許さないために、自分に必要なことを考えさせる。  ◇ワークシートの活用
終末	4 今日の学習を振り返る。 東京都中学校生徒会会長サミットで採択された「いじめ撲滅宣言」について紹介します。	◇「私たちの道徳」P165を読み、不公正なことはしないようにしようという気持ちにつなげる。

#### 5 評価

- ・ 差別や偏見をせずに、不公正な言動を許さない気持ちをもつことができたか。
- ・ 多様な感じ方や考え方に触れ、公正、公平な社会の実現に向けた、思いや考えを深めることができたか。

# 授業記録

学習活動	
(T：教師の発問、問いかけ      C：生徒の発言、反応)	
導 入	<p>1 教材について知る。</p> <p>T：今日の話の舞台は東北地方の津軽に近いところの話です。みなさんに雰囲気が伝わるように、秋田の先生に方言の指導をしてもらいました。どんな状況なのかを考えながら聞いてください。</p> <p>C：寒そうな感じがするね。</p>
展 開	<p>2 教材「卒業文集最後の二行」を読み、話し合う。</p> <p style="text-align: center;"><b>問う</b></p> <p><b>発問1</b></p> <p>T：卒業文集の最後の二行を読んで涙が止まらなかった「私」は、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>C：本当にいやな思い、辛く、悲しい思いをさせてしまった。</p> <p>C：自分がT子さんのことを追い詰めていたんだなって胸が苦しくなった。</p> <p>C：T子さんを周りの人と一緒にからかってしまい、辛い思いをさせてしまった。</p> <p>T：T子さんを友達と一緒にからかって辛い思いをさせたと思って泣いたのかな。</p> <p>C：「私が欲しかったのは、母でもなく、本当の友達です。」と書いてあった。ただの「友達」ではなく、「本当の友達」と言っているから、自分や他の人たちはT子さんにとって友達だと思っている。T子さんたちはいい友達とは言えないし、T子さんは本当の友達はいないと思っている。</p> <p>T：T子さんにとって、本当の友達はいなかったのですね。</p> <p>T：今まで、T子さんをさんざんいじめていたのに、なんでこれを読んで泣いたのだろう。</p> <p>C：T子さんは、お母さんがいないから、一番欲しいものは普通ならお母さんだと思う。だけど、本当の友達と洋服と書いてあったから、お母さんよりも色々な話ができる友達、服が汚れているといじめられるから、きれいな洋服が欲しかったのかなと思う。</p> <p>C：きれいな洋服というところから、内面的にはもう十分頑張ってきたつもりだから、あとはもう外見を変えないといじめはなくならんじやないかと追い詰められたんだと思う。</p> <p>T：内面は頑張ったけれど、受け入れてもらえなかった…。</p> <p>C：(やり取りを聞いて、涙を流す生徒。)</p> <p>C：カンニングをしたり、からかったりして、なんで謝らなかったのだろうとすごく後悔した。</p> <p><b>発問2</b></p> <p>3 自分の生活を振り返って考える。</p> <p>T：人はなぜいじめてはいけないと分かっているのに、いじめてしまうのか。どうしたらいじめはなくなるのだろうか。</p> <p>(ワークシートに記入)</p> <div style="border: 1px solid pink; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">ワークシートの活用</div> <p style="text-align: center;"><b>判断する</b></p> <p>[グループでの話し合い活動]</p> <p>[全体での話し合い活動]</p> <div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">座席表シートの活用</div> <p>T：それでは皆さんで共有したいと思ったことを発表してください。</p> <p>C：人には、自分より上や下だという考えは、必ずと言っていいほどある。自分よりも下だから、少しばかりしてやろうという些細な気持ちからいじめが始まるのではないかなと思う。ちょっとした気持ちなのか、いじめている本人はいじめている感覚がないと思う。</p> <p>C：相手との違いを理解して、それぞれの個性を見付けていくことが大切だと思う。もしもそれが無理なら、いじめている人が近くにいたら、周りの人が注意するのが理想だけど、一人で注意するのは難しい。何人かで、集団となって注意していけばいいのだけど。</p> <p>C：つぶやき。(できないよ。)(何人かの集団でも難しい。)</p>

- C：いじめられている人のことを考えて、自分がされていやなことはしないことが大切だと思う。
- C：でも、人間だから。人間として生まれてきた以上、いじめはなくなる。
- C：いじめる人は、自分を強く見せたい。一緒にいじめる人は、自分もいじめられたくない。いじめる人は、プライドが高くて、人それぞれ違うのに、その違いが認められない。だからお互いの長所を見付けて、尊重し合うことができるといい。誰かがいじめようと言ってきても、周りの人が優しく止めるとか。
- C：自分のプライドが高い人ほど、人の悪いところを見付けないと気が済まないんじゃないか。いじめがなくなるのは、自分の弱みを知られたくないから。他の人に偏見をもたず、その人を認めて、誰にでも平等に接する。一番簡単なのは、いじめが起こる前にみんなで仲よくすること。
- C：いじている人が裏でいじめられていることもある。立場が下の人をいじめようとしていくと、無限ループになってしまう。
- C：自分より下って、どんなこと？そういう思いがいじめに直結するんじゃないかな。
- C：いじている人でも、いじているということの自覚がない人もいると思う。周りの人が黙っているんじゃないかと、お互いに声を掛け合うこともいいと思う。
- T：いじている人は自分がいじめをしている自覚がないってこと？
- C：そうそう。あとは、いじめるというか、ふざけるっていうのかな。その人の反応を見るのが楽しいっていう人もいると思う。それが、どんどんエスカレートして、その人の短所を見付けていじめがひどくなるんじゃないかな。
- C：そもそも人をいじめるのは心が汚れているんだよ。平等ではない。
- T：平等ではないとはどういうことですか。
- C：いじめは1対1ではない。けんかやいざこざがあったときに、よくどちらかの味方に付くことがあるけれど、平等ではないよ。いじめは複数でしている。集団となって自分の身を守っているという卑劣さを自覚していない。
- C：見ている人も無関心を装っているけれど、いじている人やいじめられている人は、敏感にどちらの味方か感じているよね。
- C：(多くの生徒がうなずく。)
- T：だからこのようにいじめが起こるんだね。いじている人が自分に気付くことができるか、気付いていないなら、周りの人が声を掛けてあげる。いじている人に声を掛けてあげられないなら、いじめられている人に声を掛けてあげるなど、たくさんの意見がありました。
- C：いじめは人の悲しい部分なのかも。

**気付く**

**ワークシートの活用**

- T：それでは、今日の授業で感じたことや気付いたことは何でしょう。  
(ワークシートに記入)
- C：人には感情があるからいじめがなくなれないと思った。でも、大切な感情と必要のない感情がある。人を大切に思う心を育てていきたい。
- C：いじめを止めることは難しいことだと思う。しかし、自分の一言で、当事者や自分も人生が変わるとしたら知らん顔するのではなく、何らかに関わることも大切だと思った。
- C：いじめをなくすことは難しいことだ。一人では無理だからこそ、人との協力でいじめを減らしたり無くしたりすることができると思う。
- C：私は友達をいじめたことはないし、いじめられたこともないと思っていた。でも、無意識のうちに相手意識に欠けた行動があったかもしれない。みんなに公平に接することは難しい。

4 今日の学習を振り返る。

T：東京都中学校生徒会会長サミットで採択された「いじめ撲滅宣言」について紹介します。  
(「私たちの道徳」文部科学省 P165を読む)  
皆さんの話を聞きながら、先生も、「いじめ」ということを通して、人が人を差別したり、偏見をもったりすることについて考えさせられました。どんなときも、誰にでも公平に接することは難しいことなんだなということ学びました。

終末

## 観察対象生徒 E の学びの姿からの見取り

### 《本時のねらいに関わって、生徒 E への教師の意図》

自分の考えを述べたり、友達の考えを受け入れたりすることを通して、いじめをなくすことの難しさも感じながら、公正、公平についての考えを広げさせたい。

### 《道徳科の授業における生徒 E の姿》

- ・ワークシートに自分の考えを記述する。
- ・グループでの話し合い活動では積極的に発言することが多い。
- ・全体での話し合い活動では、指名しても自分の考えを発言することはない。

評価の場面	評価の方法	生徒の活動や反応の場面
「判断する」場面	ワークシート 座席表シート	<b>発問 2</b> グループでの話し合い活動 友達の意見を積極的に聞く。 （「生きている全ての人々の心が変わる。」と記述する。）
「気付く」場面	ワークシート	自己評価 （すべての項目で「とても思う」に○を付ける。） 記述 （「一人一人の心がいい方向に変わっていくしかない。」と記述する。）

### 生徒 E の授業記録

	学習活動 T：教師の発問、問いかけ	E：生徒の発言、反応
展開	<b>発問 2</b> T：人はなぜいじめではいけないと分かっているのに、いじめてしまうのか。どうしたらいじめはなくなるのだろうか。 <b>[グループでの話し合い活動]</b> C：一人一人の長所を知って、人の気持ちを考えることが大切だと思う。 C：すごく説得力があるね。うん。世界中の人々の心を変えるしかない。 T：今日の授業で、感じたことや気付いたことは何でしょう。 （ワークシートに記入） ー授業後ワークシートに記入したことの聞き取りー	E：どうしたらいじめがなくなるんだろう。生きている全ての人たちの心を変えるしかないよ。 E：にっこりと笑う。 E：Zさんはどう思う？ E：（ワークシート）「一人一人の心がいい方向に変わっていくしかない。他のことについても考える。」と記入する。 E：（聞き取り）生き物、虫、植物のことも考える。みんな、自分のことばかり考えているからいじめはなくなるらない。

### 【学習状況の見取り】

人には差別や偏見をもってしまいう弱さがあり、公正、公平な心で生活することは難しいことを理解した上で、公正、公平を実現するためには、自分のことばかりでなく、生き物全てを思いやる心が大切であることに視点を広げて考えを深めることができた。

## 観察対象生徒 R の学びの姿からの見取り

### 《本時のねらいに関わって、生徒 R への教師の意図》

友達に自分の考えが認められたり、自分が友達の考えを認めたりすることを通して、公正、公平について自分の考えに自信をもち、公正、公平について考えをより深めさせたい。

### 《道徳科の授業における生徒 R の姿》

- ・ワークシートには自分の考えを記述することができる。
- ・グループでの話し合い活動では自分の考えを述べるが、全体での話し合い活動では発言があまりない。

評価の場面	評価の方法	生徒の活動や反応の場面
「判断する」場面	ワークシート 座席表シート	<b>発問 2</b> グループでの話し合い活動 友達の意見を聞く。 (「みんながそれぞれの個性を認める。」と記述する。)
「気付く」場面	ワークシート	自己評価 (すべての項目の「とても思う」に○を付ける。) 記述 (「学級みんなは、本当に真剣に考えてくれてうれしかったです。」と記述する。)

### 生徒 R の授業記録

	学習活動 T：教師の発問、問いかけ	R：対象生徒の発言、反応
展開	<b>発問 2</b> T：人はなぜいじめてはいけないと分かっているのに、いじめてしまうのか。どうしたらいじめはなくなるのだろうか。 <b>[グループでの話し合い活動]</b> C：相手との違いを理解して、それぞれの個性を認め合う。  <b>[全体での話し合い活動]</b> (ワークシートに記入)	R：「みんなが一人一人の長所を見つけて…」と先の言葉が続かなくなるが、同じグループの友達が、「理解するっていうこと？」と捕捉した。それを受けて、生徒 R は、「そう。認める。」と表現することができた。グループの友達は、頷いて R の考えを受け止めた。 R：全体の話合い活動では、発言者の方を見て静かに聞いていた。 R：(ワークシート) 小学校の頃にこの話のようないじめではなかったけれど、当時はとても傷付きました。今日はみんなが本当に真剣に考えてくれてうれしかったです。

### 【学習状況の見取り】

グループでの話し合い活動を通して、人間には差別や偏見をもってしまいう弱さがあり、公正、公平な心で生活することは難しいことを理解した上で、公正、公平を実現するためには、まず互いを理解し、認め合うことが大切であることに気づき、考えを深めることができた。

道徳科 第( )回 ( )月( )日

「卒業文集最後の二行」

年 組 氏名 \_\_\_\_\_



◎人はなぜいじめてはいけないと分かっているのに、いじめてしまうのか。どうしたらいじめはなくなるのだろうか。

自分の考え

友達の意見

今日の時間に感じたこと・気付いたこと



今日の道徳を振り返って

資料は深く考えられるものだったか	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない
いじめを通して差別や偏見について考えることができたか	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない
いろいろな考え方に触れられたか	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない
自分の生き方に影響を与えそうか	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない

出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前
出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前
出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前
出席番号	ふりがな 名前 ! うなずく。	出席番号	ふりがな 名前 ★生徒R 発言はしない が、書く。 認める。	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前
出席番号	ふりがな 名前 理解する ということ?	出席番号	ふりがな 名前 ! うなずく。	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前 ! Eに賛同する。	出席番号	ふりがな 名前 ★生徒E 全ての人たちの 心を変えるしか ない。
出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前	出席番号	ふりがな 名前 Eから意見を 求められる。	出席番号	ふりがな 名前 Eから意見を 求められる。

月 日

教卓

年 組 座席表

<評価マーク>

●…道徳的価値に対する日々の姿

○…中心発問に対して

!…気づき・賛同